

■ ご挨拶 ■

第 82 回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第 82 回日本医学放射線学会総会 会長
広島大学大学院医系科学研究科 放射線診断学研究室 教授
粟井 和夫



この度、第82回日本医学放射線学会総会を、パシフィコ横浜にて2023年4月13日～16日の4日間開催致させていただきますことになりました。日本放射線技術学会、日本医学物理学会、国際医用画像総合展（ITEM）とも協力し、ご参加いただく皆様に最新の放射線医学の情報をご提供できる会にできればと思います。

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は3年以上にわたり感染流行の消長を繰り返しており、2023年の総会もそのような状況での開催となりました。このため、昨年と同様に、現地での開催を主軸としつつWebを併用しながら開催とすることにいたしました。

今回の開催テーマは、“Be a Game Changer in Medicine with Radiology”といたしました。ご存知のように、Game Changerとは、「試合の流れを変えるような活躍をする選手」や「物事に大きな影響を与える革新的なもの」のことです。このテーマには2つの思いを込めました。まず、放射線医学から、現代の医学をより良いものへ変革していきたいという思いです。もうひとつは、放射線診療に従事している私達一人一人が医学を変革できる存在になろう、という思いです。現在、医療の中で人工知能（AI）やロボットが取り込まれつつあります。特に、AIは放射線画像と相性が良いと言われており、日本医学放射線学会でも学会を挙げて取り組んでいます。個人的には、放射線科医がAIやロボットを使いこなしながら医学を変革するGame Changerになることができればと願っています。

今回のプログラムの中でのトピックスをいくつかご紹介します。三学会の合同特別講演は、東京大学 薬学部の池谷裕二教授にお願いしました。池谷先生は、「進化しすぎた脳」、「脳には妙なクセがある」等の一般書を多数書かれている新進気鋭の脳科学者です。池谷先生には、広島大学の学生に講義をしていただいています。脳に関する面白いトピックスやワクワクして元気がでるような話を毎回していただいております。合同特別講演でも面白いお話が聞けるものと期待されます。JRS担当の三学会合同のシンポジウムでは、放射線医学領域でGame Changerとなりうるものを放射線診断、画像工学、IVR、放射線治療の領域からそれぞれ有名な先生にご講演いただく予定です。このシンポジウムでは、今後の医学に革新をもたらす技術や手法について最新情報が得られるものと思います。独自企画としては、シンポジウム「CTの次世代技術」、「腹部MRIの最新技術」、「肝臓MRエラストグラフィーハンズオン」などを用意しています。例年開催されていますImage Interpretation Sessionでは、一般の参加者もすべての画像をインタラクティブに見ることができるような方式で行う予定です。

実りある学会としたいと思いますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。